

「いのちよりも水がほしいし

みなみこうしえん小がっこう

一ねん 大え あけみ

いえのちかくのこうえんに、「ぎみんひし

とかがれた大きないしがたっぺています。そこ

いは、むかし「こっこでおきたことが、かかれて

います。わたしのすんでいるところは、むか

し「なるおむらぐとよばれていました。むか

しむかしなるおむらのあたりは、あめがふら

ずイネがそだちませんでした。そこでとなり

むらに水をわけてほしいとたのみました。が、

ことわられました。こまったなるおむらの人

は、となりむらの川の水をぬすみました。そ

れにきづいたとなりむらの人はおこって、け

んかがはじまりさいばんになりました。なる

おむらの人は、「いのちよりも水がほしいし

といました。そして二十五人がしけいにな

りました。しかしそのあとなるおむらは水に

こまることはありませんでした。

わたしは、ごわいしかなしいはなしだとお



もいきました。ぬすむことはいけないけど、水がなくてつまる人を見るとしかたがなかったんだらうなとおもいました。ほかの人のためにじぶんがしんても水がほしいというのは、まごいごとだとおもいました。そのぐらい水がたいせつだったんだらうとおもいます。

いまはなん日もあめがふらなくてもじや口から水がでて、まい日たくさん水をつかっていきます。わたしは水はあってあたりまえだとおもっていましたが、でも水をじゆうにつか



えることは、とてもしあわせなことです。せかいには、水をうばいあってあらそっているくじがあったり、きれいではない水でせいかつしている人がたくさんいることをしりました。にほんではことしの七がつに大あめがふりました。じや口から水がでなくてつまっている人がたくさんいることを、テレビでみました。あめがふったからといって、すぐにのんだりつかったりでやるわけではないこともしりました。



わたしはきめました。水をよごさない、むだづかいしない、でたいせつにづかう。このこととまじめに月づけしていきましょう。